

# 才能の定義に関する一考察

氏名(掲載は自由)

要旨本文 (文字数は自由)

才能というものについて考察を深めていくと、自己と他者とのズレや個人の価値観によるところが大きく、そもそもあやふやで定義が難しいので、どこからどこまでが才能であり、また才能でないのか、何をもって才能とするのかを質問形式でアンケート調査を行い、その結果をひとまずの世間一般の認識として定義した。

質問は全部で 14 個設定し、それらに対していくつかの仮説を立て、そして 2021 年の 7 月～10 月の三ヶ月間に渡って 37 人に調査し、それらの調査結果を基にカイ 2 乗検定とともにクロス集計も行った。

以上のことを行い、その結果を結論として簡潔にまとめると、世間一般の価値基準における「才能」の定義とは、最低でも自然にでき・飲み込みが良く・努力を継続でき・コミュニケーション能力が高く・先を見据えて動け・環境によって開花し・遺伝的であること、これらの要素が情報として入り込み、また自己の認識として取り込むことで、人々はそれらを「才能」として形作っていき、認識するものと思われる。

フォントサイズ：タイトルのみ 18pt、その他 10.5～11pt

和文フォント：MS 明朝

欧文フォント：Times New Roman